

KPI 自己評価表

WG-A

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
産官学連携事業	産官学共同研究について、最終年度までに新たに 10 件以上を実現する。	<p>地域内での産官学共同事業を推進する助成を実施した。また、産官学連携による共同研究・共同事業のきっかけづくりとして、加盟大学が取り組む研究や教育を平易な表現で紹介をするハンドブックを作成し、紙媒体及び協議会 HP を通じた電子媒体として情報発信した。</p> <p>本年度の成果として、新たに 1 組の産学間の共同研究・事業に取り組もうとするグループを支援し、2019 年度より累計で 5 件の共同研究・共同事業を実現することができたことから、KPI に対する自己評価は「A」とする。</p>	A
インターンシップ・採用活動支援事業	・インターンシップ・採用活動支援事業への参加企業数(延べ数)・参加学生数(延べ数)を 2019 年度の参加実績を基準に 10%以上の増加を毎年維持する。	<p>地域内企業の採用活動を支援するための産官学が連携したセミナーや合同説明会、及び学生への就職活動を支援するためのガイダンスやイベントを実施した。</p> <p>本年度の成果として、参加企業数は延べ 154 社 (2019 年度比+52.5%)、参加学生数は延べ 145 人 (2019 年度比+10.7%) となった。このことから、KPI に対する自己評価は「A」とする。</p>	A
UIJ ターン推進事業	UIJ ターン推奨事業として、滋賀県外居住者の滋賀県内企業や事業所への本プラットフォーム連携機関を通じた雇用について、最終年度までに年間 20 名以上を実現する。	<p>加盟大学の学生の目線から、びわ湖東北部の「ヒト」「モノ」「コト」の魅力をガイドブックにより発信することで、若年層の UIJ ターンの促進を図った移住促進事業を実施した。</p> <p>本年度の成果として、びわ湖東北部地域の自治体同士が連携する新たな事業展開ができた。KPI について、年間 24 名の雇用 (見込みを含む) が確認できたが、この雇用人数の内訳は主に県外に居住する新規学卒者であり、インターンシップ・採用活動支援事業との相乗効果による成果とも考えられることから、自己評価は「B」とする。</p>	B

WG-B

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
生涯学習拠点整備事業	地域住民向けの公開講座を毎年 10 講座以上開講する。	公開講座として教養コース 2 事業 10 講座、専門コース 4 事業 18 講座の合計 6 事業 28 講座を開講した。参加者は 5,098 名（動画視聴 4,609 名、対面 489 名）であった。出前公開講座は実施段階でコロナの感染状況が拡大し中止となったが、目標の 10 講座以上開講できたため自己評価を「A」とした。	A
地域住民に向けた健康増進支援事業	最終年度以降も継続可能な地域住民向けの健康イベントを 5 件以上定着させる。	本年度は、2 つの分野で地域住民向けの健康イベントを推進した。「中高年の健康増進分野」6 件、「認知症をめぐる共生社会構築分野」4 件の合計 10 件のイベントを実施し、その内 9 件が地域住民向けであった。目標の 5 件以上となったため自己評価を「A」とした。	A
国際交流促進事業、まちづくり支援事業、びわ湖周辺環境整備事業	産官学地域連携を生かした学生が関わるまちづくり活動を毎年 5 件以上実施する。	本年度は 3 事業を推進した。「災害に強いまちづくりプロジェクト」では 3 件の活動、「SDGs でつながる学生の地域連携プロジェクト」では 9 件の活動、「まちの魅力発信プロジェクト」では、4 件の活動を行い、合計 16 件の活動を実施することが出来た。その中で学生が関わるまちづくり活動は 13 件であった。目標の 5 件以上になったため自己評価を「A」とした。	A
ネットワーク推進事業	地域課題に取り組む活動を行う団体等が意見交換する交流会を年 2 回以上開催し、活動の満足度等を測定する。	本年度は、WG-C より移行した「キャンパス SDGs びわ湖大会」をオンラインで開催し、学生・地域団体・自治体等が交流を持つイベントとなった。また、学生の地域連携プロジェクトの中間発表の場としても活用し、参加者も 1,694 名となっている。満足度の調査も実施し、内容の濃い事業が実施できたが、交流会としては 1 回の開催のため自己評価を「B」とした。	B

WG-C

取組事業	活動指標 (KPI)	事業活動状況	自己評価
SDGs をテーマとした共同講義事業および単位互換事業	SDGs をテーマにした共通科目を1科目以上開発する。 単位互換科目受講生を最終年度までに2018年度比で30名以上増加させる。	令和2年度をかけた科目開発を行ったSDGsをテーマとした新規科目「近江で実践SDGs」を環びわ湖大学・地域コンソーシアムの科目として開講し、それぞれの講義を主に5大学の教員が担当した。その結果、プラットフォーム内の3つの大学より19名の学生の受講登録があった。 また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で遠隔授業での実施となったものの、単位互換科目を実施することが出来た。このため、自己評価は「A」とする。	A
幼・小・中・高校生への学習支援事業 地域内進学促進事業	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を最終年度までに新たに5件以上行う。 プラットフォーム事業参加校合同で高校生向けの大学説明会を年1回以上開催する。	幼・小・中・高校生向けの学習支援活動を次年度に向けた検討会も含め5件実施した。新規の事業及びICT分野における学習支援活動の幅を広げることが出来たことを特筆したい。また、前年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という状況下において、合同の大学説明を行う方策としてインタラクティブ動画を制作したが、本年度は動画の充実と動画の視聴者数の拡大を目指した。これらにより、KPIを達成したため、自己評価は「A」とする。	A
地域人材活性化支援事業	社会人等向けの共同教育講座を最終年度までに5講座以上実施する。	社会人等向けの共同教育講座をについて、12講座計画し10講座実施した。また、連続講座を1講座(計4回)、出前講座を1講座(計10回)実施した。また、他に社会人等に向けた教育に関する事業を3つ実施した。KPIの達成に加え多彩な取組を実施する事が出来たため、自己評価を「A」とする。	A
共同FD・SD事業	共同FD/SD研修を年1回以上実施し、最終年度までに各大学の教育の質の向上及び教職員の質の向上に役立てる。	共同FD・SD研修を4回実施した。また、共同IR事業・懇話会及び検討会をそれぞれ1回実施した。また研修等の実施のみならず、WG-C内に共同FD・SD研修検討委員会を新規に設置し、今後の協議会として必要となる研修を検討する場を設け、より効率的に研修を計画出来る体制を整えた。これによりKPI及び体制づくりの結果により、自己評価を「A」とする。	A